

## 【第10回松戸市都市公園整備活用推進委員会】議事録

日 時：令和2年11月9日（月） 午前10時00分～12時00分

場 所：松戸市役所新館5階 市民サロン

出席委員：10名（別紙名簿のとおり）

欠席委員：1名

事務局：街づくり部審議監、公園緑地課課長、公園緑地課課長補佐2名

21世紀の森と広場管理事務所長、所長補佐、街づくり課専門監 他5名

傍聴者：1名

### 議 事

1. 部会からの報告
2. 最終答申について
3. 今後の審議事項について
4. その他

配布資料：議事次第、出席状況、第10回松戸市都市公園整備活用推進委員会資料

### 議事内容

#### 1. 部会からの報告

(1) パークマネジメント戦略検討部会からの報告

##### 【部会長】

(9月29日：第7回の報告)

- ・web会議を開催し、第9回委員会で皆様のご意見を受け、最終答申案、パークマネジメントプラン骨子案（以下、「骨子案」という）、キャッチフレーズ案を修正したものについて、審議を行った。
- ・最終答申案については、外来生物調査の記述が不十分であるという意見が挙げられた。また、専門家以外でも在来種と外来種の違いが分かるようにすることやアメリカザリガニについての記載を付け加えた方が良いという意見が挙げられた。
- ・骨子案については、SDGs やサードプレイスなど、一般的に定着していない文言への説明を付記した方が良いという意見が挙げられた。また、不明瞭かつ誤解を生みかねない文言については表現を変更した方が良いという意見が挙げられた。
- ・本来のキャッチフレーズは、プランの方向性や目標といったことについて端的に示したものであるため、現状の進行具合ではキャッチフレーズを確定させる段階には至っていないと判断し、今後検討すべきであるという意見が挙げられた。
- ・「公園が地域に向けて何を還元していくのか」、「地域の機能の活用とはどのような内容か」という部分の表現が書き切れていないため、修正した方が良いという意見が挙げられた。
- ・骨子案の中にある具体的な将来像に向けた取り組み案では、3つの方針を柱として示して

いたが、その中でも特に3番のマネジメントシステムの部分が表現し切れていないため、もっとシンプルに表現すべきだという意見が挙がった。また、パークマネジメントに対する理解が不足している内容になっているのではないかと、という指摘も挙がった。

- ・骨子案の体裁を修正すべきだという意見が挙がったため、表現すべきことは大きく変更しないことを前提に、部会員で骨子案を新たに作成することとした。

(10月19日：第8回の報告)

- ・web会議を開催し、9月29日に開催された部会での検討内容を基に修正した骨子案について、審議した。

「骨子案」を「21世紀の森と広場パークマネジメントプランの基本的方向性」というタイトルに変更した。骨子案は、新型コロナウイルス感染症の拡大による影響により審議を中断したことから、委員会の中で議論をあまり深められていないため、その点が1つの不安材料としてあった。

- ・第9回委員会時点で提示した骨子案の内容は、表現が具体的なものと抽象的なものとの差が大きいものになっていた。また、写真やイラストによってわかりやすく表現されていることにより、原案ではなく完成したものであるかのように一般の方に誤解される恐れがあったため、「基本的方向性」では写真やイラストは使用しないこととした。これまで提示してきた写真やイラストを用いた形式の案は、松戸市が今後市民向けに提示する資料として活かしたいという提案が事務局よりあった。
- ・最終答申とする「基本的方向性」は、まだ検討が不十分なところもあるため、引き続きパークマネジメントプランの策定に向けて検討を行うことを提案する。

## 2. 最終答申の案について

### 【事務局】

- ・第9回委員会でいただいた意見を踏まえ該当部分を修正したほか、「パークマネジメントプラン骨子」から「21世紀の森と広場パークマネジメントプランの基本的方向性」への変更に伴い、それに関連する部分を併せて修正した。また、第9回委員会で報告させていただいた千駄堀池の外来生物調査の結果のまとめを答申書に追記した。
- ・参考資料は、第9回委員会後に各部会で個別に調整していただいた内容となっている。
- ・最終答申は、「鑑文」、「21世紀の森と広場パークマネジメントプランの基本的方向性」、「松戸市都市公園整備活用推進委員会答申書（最終）」、「参考資料」の順番にまとめられた状態で市長にお渡しいただきたい。

### 【委員長】

- ・第9回委員会で承認された骨子案は、写真やイラストが挿入されており、完成版を要約したようなものになっていた。しかし、完成版として捉えられてしまうと、マネジメントプランができていく前提で作成された骨子として誤解される可能性がある。そのため、今期の委員会では、骨子ではなくマネジメントプランの基本的方向性を定めたということと

し、骨子案を編さんした。

- ・体裁の問題として答申書の内容を文章化した方が良いという意見が出たため、内容としては大きく変更せず、検討すべきことと項目立てについて、文章としてまとめ直した。
- ・答申書は従来添付資料という形で扱うイメージが強いが、今回は最終報告書の中に答申書が含まれるというような位置づけということで、今回の答申として基本的方向性を含めた最終答申書の案をご承認いただければ、それをもって市長に今期の最終答申にしたいということが委員会に対するお願いである。
- ・「21世紀の森と広場パークマネジメントプランの基本的方向性」は15ページでまとめられており、1、2ページの「パークマネジメントプラン策定の背景と目的」、3ページの「パークマネジメント及びプランの基本的考え方」で、マネジメントプランを作成する目的等を説明している。4ページ以降は、第9回委員会までの骨子案に簡潔に示されていた内容を整理し直し、21世紀の森と広場の現状分析について記載している。10ページ以降は、「実現のためのプランの期間と目標の設定」といったような今後の話について示されており、13、14ページにはダイアグラムを用いた説明が行われている。15ページでは、「今後検討すべきパークマネジメントプランの構成や内容」ということで、検討すべき課題の抽出、マネジメントプランの枠組みの設定、マネジメントプランの計画期間と目標の設定検討、今後検討すべき内容について、取りまとめたものになっている。
- ・「21世紀の森と広場パークマネジメントプランの基本的方向性」は、写真やイラストを用いずに説明を行っているため、第9回委員会のものから、かなり伝達性が低下しているが、内容については文章を読んでいただければ、理解されるものになったと思う。

#### 【委員】

- ・「21世紀の森と広場パークマネジメントプランの基本的方向性」で私が特に気にかけたところは、目的、背景、その考え方というところで、「なぜパークマネジメントプランが必要なのか」、「どのようなパークマネジメントを想定しているのか」についてしっかりと示さなければならぬという議論があったため、読み手に意図がしっかりと伝わるよう文章を執筆した。
- ・9ページには将来像の想定を記載している。実現したい将来像について、いくつかのキャッチフレーズの候補が挙げられていたが、確定に至らなかったため、今回のような表現方法を用いている。
- ・11～14ページは、以前はイラスト等を用いて具体的に内容を示していたページだったが、特に「【Ⅲ】多様な主体が協働する新しいマネジメントシステムの構築と実践」のマネジメントシステムに関する事項において、イラストと文章の内容を一致させることが難しく、文言の説明を詳細にイラストに落とし込むことが出来なかったため、イラストを削除し、施策の目指す方向性について【Ⅰ】【Ⅱ】の記載と合わせるように修正を行った。
- ・15ページは、「(3)マネジメントプランの計画期間と目標の設定検討」として、この案はあくまで方向性を示したものであり、今後細かい部分について詰めていくという思いについて記載している。

**【委員】**

- ・骨子案のタイトルを「基本的方向性」に変更したことで、マネジメントプランの方向性や必要性といった重要な点が理解しやすくなっている。
- ・5 ページに「この公園を取り巻く地域の現状と課題」とあるが、地域課題に対する取り組み方や課題解決のためのパークマネジメントの手法について書き切れておらず、背景としてはその点の議論が今回の期間の中で行うことが難しかったというものが挙げられる。今後は地域の課題と現状に対して「21 世紀の森と広場は何をすべきなのか」という点や、「すべきことを達成するにはどのような仕組みが必要なのか」、特に 13 ページのマネジメントシステムというところを明確にし、「基本的方向性」全体に反映すべきだと思っている。

**【委員】**

- ・以前までの骨子案と比べて、プランの方向性や考え方の流れが書き直されたことによってわかりやすくなっており、すごく良くなったと思う。以前の骨子案は飛躍しすぎて、後でバラバラになってしまう恐れがあったため、現段階ではこの「基本的方向性」が良いのではないかと思っている。

**【委員】**

- ・文章を書くときに背景、現状と課題はセオリーである。文章とした方が部会の検討経過と繋がりが見えてくるため、書き直していただいて良かったと思う。

**【委員】**

- ・今回の資料で、いろいろな考えが分かったとともに、資料がコンパクトに良くまとめられていると思う。

**【委員】**

- ・今後委員会や部会で議論を進めるにあたり、プランの方向性が非常に重要であり、今回示された方向性はとても良いものになっていると思う

**【委員】**

- ・プランの策定にあたって大切なものは基本的な出発点、それから多様性、今後の変化だと思ふ。多様性を担保しつつも基となる方向性は逸脱しないという一番難しい点を今回の「基本的方向性」では表現されていると思う。今までで見ていなかったような細かい点までいろんな意見が出ているというところも含め、今後は更に今の案より良くなると思ふ。現時点で、最善のものが出来たと思ふ。

**【委員】**

- ・プランの方向性が 1 つにまとめられており、非常にわかりやすくなったと思ふ。イラスト等、いろいろなものを入れてしまうと完成版のようになってしまい、結論が出ているかのように思われてしまうため、将来への課題を残しつつ、方向性が決まり、良いものになったと思ふ。

**【委員】**

- ・現在の公園自体の課題を改めて認識していただいたということで非常にありがたく思っ

ている。

- ・「21世紀の森と広場の魅力をアップしたい」と思っている職員が多いため、答申後には職員にも答申の内容を周知したいと思う。

#### 【委員長】

- ・最終答申として、「21世紀の森と広場における公園の理念と基本方針の検証と、中長期的な管理運営の目標の検討」、「21世紀の森と広場における樹林地や水辺等自然環境の保全と活用の検討 特に、千駄堀池における外来生物対策に関すること」の2つの柱がある。答申の1つ目については、「基本的方向性」の中で具体的に盛り込んでいるということをご賛同いただけたと思う。
- ・本日、最終案としてお手元に配布させていただいている内容について、ご賛同いただけたということで、今日提出させていただくということで進めたいと思う。
- ・改めて事務局より最終答申の内容についてご説明いただきたい。

#### 【事務局】

- ・最終答申においては、市長に最終答申をお渡しいただくことで、これまで約2年4か月にわたってご審議いただいていたりました諮問事項について、一区切りとなる。
- ・次回の委員会で改めて市長より諮問書をお渡しいただく予定であり、現在事務局にて諮問書を作成中である。今回最終答申を受領した後、次回以降の委員会において重点的にご審議いただきたい事項等を諮問書に記載する予定である。
- ・パークマネジメント戦略検討部会からの報告の資料にも記載してあるが、これまでにお示した写真やイラストを用いた体裁の冊子については、答申を受けた後、松戸市が市民向けに作成する「パークマネジメントプランの概要版」のような位置付けとさせていただく予定であり、今後も引き続きご意見を賜りたい。
- ・資料2は、松戸市都市公園整備活用推進委員会として、市長に答申する書面である。
- ・「21世紀の森と広場パークマネジメントプランの基本的方向性」の1、2ページに背景が記載されている。3ページには、ここで示すマネジメントプランについてどのような定義をするのか、どのようにまとめていくかについて記載されている。4～6ページでは現状に基づき、委員会でこれまでご審議いただいた内容を踏まえて、諸課題の抽出と検証をしたものについて記載をしている。7、8ページで現計画における現状、管理区分、ゾーニング等について、確認のため掲載をしている。9ページはこれまでの背景、現状、課題を踏まえた上で、将来像をどのように設定するかをご提案いただいている。10ページには、実現のためのプランの期間と目標の設定について、期間を概ね10年間として定期的に見直しを図っていくというご提案をいただいている。また、プラン策定のための検討の視点と題して、全部で8項目の候補を挙げていただいている。11ページでは、プランで取り上げる主要な施策の想定について記載されている。この部分が本編の具体的な行動計画の立案につながる部分だと考えている。12～14ページでは、将来像の実現に向けた主要施策のキーワードを列挙している。13、14ページには、簡単に理解を深めていただけるような模式図を載せている。15ページには、今後検討すべきパークマネジメントプラン

の構成や内容について、大きく3つの項目について提言をいただいている。

**【委員長】**

- ・「21世紀の森と広場パークマネジメントプランの基本的方向性」は答申の順番より、鑑の「1 21世紀の森と広場における公園の理念と基本方針の検証と、中長期的な管理運営の目標の検討」という事項に対する答えとなる。「松戸市都市公園整備活用推進委員会答申書（最終）」は、同様に鑑の「2 21世紀の森と広場における樹林地や水辺等自然環境の保全と活用の検討 特に、千駄堀池における外来生物対策に関すること。」という事項に対する答えとなる。この点がきれいにされているとよりわかりやすい答申になると思う。
- ・こちらの答申案をもって最終答申とさせていただきたいが、いかがか。

**【全委員】**

- ・（異議なし）

**【委員長】**

- ・皆様にご賛同いただいたので、原案を答申として市長にお渡しすることとする。

### 3. 今後の審議事項について

**【委員長】**

- ・次回以降の審議について、どのような内容を特に検討していきたいか、皆様からご意見をいただきたい。

**【委員】**

- ・パークマネジメントということで、公園緑地をどうしていくかという動きがここ数年あるが、どういったパークマネジメントを他のところがやっているか、海外事例も参考にして調べられたら良いのではないかと思う。

**【委員】**

- ・施設等を整備する際に必要なインシャルコストとランニングコスト等の予算規模がどのくらいかイメージできるものがなければ、今後の議論の中で困ってしまうように思う。

**【委員】**

- ・予算が見えなければ、自分たちの提案がどれだけ現実性のあるものなのか判断ができないため、この点がサービス水準向上検討部会での検討において特に気になっている。
- ・例えば、バリアフリーに関して言えば、予算があれば園路を整備していくことが理想だが、現実的には難しいことから、今できることとしてホームページ等で園内のバリアフリーに関する状況を情報提供していくことを提案した。

**【委員長】**

- ・事業体系として位置づけていくものなのか、それとも緑の基本計画のようなマスタープランを策定するような事業なのか、あるいはそれに基づいて公園のリニューアルも含めたことをやっていこうとしているのかの提示があると、わかりやすくなると思う。

**【委員】**

- ・パークマネジメント戦略検討部会で検討されていることは、プランの方向性を示す内容だ

と思うが、サービス水準向上検討部会は比較的現実的な話が多いため、今後の議論の方向性として、私たちはどうしたら良いのか、事務局からご提示いただければ進められない内容もある。

**【委員長】**

- ・マネジメントプランにおいて、ハードの改良まで含めてやっていくこととするのか、それともそのためのセンテンスを作ることなのか、整理が必要だと思う。

**【委員】**

- ・設備ができあがった後の運営管理費を考えると、人手や色々な機材も必要になってくるため、毎年運営経費が必要となる。提案を現実のものと考え、今後は進行していかなければならないと思う。

**【委員】**

- ・中間答申を受けた課題には、かなり具体的なことも含まれていた。一方で、今後の方向性では、もう少し総論の話なのか、それとも予算を含めた具体的な話なのか、その辺を今後示していきたいと思う。

**【委員】**

- ・私の感覚として、今回の事業の予算は毎年執行している予算プラスアルファくらいになるのであろうと思っている。あとは、新規に遊具を設置するとなった場合や新規事業を実施する場合は別途予算が追加されるということがあるのかもしれない。
- ・21世紀の森と広場にはお金がかけられていると思う。だからこそ、今後は費用対効果の話などが出て、厳しい指摘にさらされる時がくると思う。
- ・公園の予算の中で事業をやっていくことや他の部局から予算を持ってこることも含めて、プランを実現しようと考え、かなり実施できる部分があるように思う。ただし、将来的な持続可能の話になると、行政のコスト等の負担を減らしていきながら、市民とどうやって公園が関わっていくのが大事になると思う。
- ・費用面の関係で、今までしてきた提案が「絵に描いた餅」にならないように、行政が予算について説明するなど、今まで提案してきた意見がどれだけ実現できるかを把握すべきだと思う。

**【委員】**

- ・公園の指定管理事業は、都立公園の場合、事業者が計画や予算を提案している。公園管理においては、指定管理費と臨時の予算等で人件費と事業費をまかなっていくが、これに加え、西東京市立公園では、公園の駐車場や手ぶらバーベキュー、自販機、参加費等の自主事業費も管理費に組み込める仕組みがある。そうすると、事業者のモチベーションも上がり、結果としてより良い公園づくりが実現できる。
- ・経験上、イベント単独で収益が上がるということはない。天候により人出も大きく変わるため、イベントの収益を見込んでの運営はリスクがある。イベントは収益をあげるというよりも、地域と連携した企画にすることで、地域と公園のつながりを強化し、普段から公園を使う利用者を増やすことが目的である。それに伴い間接的に駐車場やバーベキュー

一場、自販機の利用が増えてじわじわと収益が増えていく。

- ・行政による整備や箇所や維持管理について、市民からもっとこうした方が良いといった意見を集約する場として懇談会や協議会も有効である。その意見を根拠に行政から予算がおりたり協賛金を集めたりしている。
- ・産官学民の地域のステークホルダーとの協働で公園づくりをすることで、公園を拠点として地域のリソース（人、モノ、コト、カネ・・・）が集まり、コミュニティが生まれ、地域の活性化にもつながっていく。そのような地域連携を促進する役割が必須。都立公園や西東京市立公園では、中間支援のNPO団体が指定管理者として、専門スキルのあるパークコーディネーターやパークレンジャーを配置し、いずれも高い評価を得ている。

#### 【委員】

- ・市の予算は、経常的な予算と政策的な予算に分けられる。21世紀の森と広場は、重点的に予算を要求する形で進めている経過がある。そのため、今年度から整備する遊具関係についても、財政部局も重要課題として予算を配分している状況である。
- ・今後、委員からご提案いただいたものが政策的な事業として位置付けされた場合は、政策費として要求していく。その場合、例えば5億でも10億でも必要であれば要求はしていくが、そこで市全体の事業における政策の優先順位を付け、それを財政部局で判断することになる。政策課題として、当然今回の案件について重要であると認識しているため、委員の皆様には遠慮なくご提案いただきたいと思う。

#### 【委員長】

- ・従来の管理費のような枠組みから、新しい財源も含めた形に持って行くという大きな枠組みで考えるべきか、それとも現状の枠組みで考えるかで違いが大きくなる。

#### 【委員】

- ・どのような案が採用されたとしても、ある程度の費用が必要となるため、委員会としては目指すべき姿を考え、プランを作っていくということで話を進めて良いと思う。一方で、お金を稼ぐ仕組みも併せて考える必要があると思う。

#### 【委員長】

- ・プランで何をやるかという指針を作り、その指針に基づいて改良等のいろいろな事業を行うという話に繋がっていく形が必要だと思う。
- ・プランの目指す方向から離れてしまうと意味がないため、このプランを良くしていくというインプルーブメントと、話の中身をどう繋げていくかの議論は、実際のプランの進め方や今後施設がどのくらい耐久性があり、どのくらい使われ、どのくらい費用がかかるのかという議論とともに必要になると思う。

#### 【委員】

- ・プランの方向性がある、ストーリーがあったうえで、予算要求するというようにしていかなければならないと思う。予算を要求するとき、あるいは資金を集めるときに、プランと方向性が合致し、「松戸市が良くなるからそこにお金が必要である」というストーリーが描けていれば、要求する予算額に説得力が出て、公園の発展にも繋がると思う。

**【委員】**

- ・もっと良い公園にしていくというプランを進めていくと「もっとこうした方が良い」、「今じゃ満足できない」というようになってしまおうと思われる。そのため、どのような工夫をすればそれが実現するのかという方向になっていくような気がする。
- ・他公園の事例として、新宿中央公園は、マネジメントによって人が集まり、結果的に収益にも繋がったという事例がある。より良い公園になることで周囲の環境や財政面も改善されると思う。
- ・方向性を持って進んでいくことがこれから必要となり、「最終的にこうなるべき」というものを示した方が良いのかと思う。

**【委員長】**

- ・「良い公園とは何か」ということは、非常に抽象的ではあるけども、他の事例を見ていると、基本的には公園が単独で活きているのではなく、周辺と一体のものとして 100 年、200 年と続いている公園が「良い公園」だと思う。21 世紀の森と広場をどうやったらもっと良く出来るのか。将来像をもっと詰めて「良い公園にするとはどういうことか」という流れが出てくると思う。
- ・プランの策定に必要なキーワードをあげると、「お金」は全てのキーワードに関わっていく問題だと思う。官民連携の仕方、財源確保をどうするかという話がかなり具体的にリンクしてイメージ出来ると良いと思う。しかし、ただ予算が増えれば良いということだけではないように思う。どこから捻出するかということも大事で、市の予算だけでなく、外部から資金を持ってこることも 1 つだと思う。今回の事業ではお金だけでなく、運営の面倒まで見てもらうという流れまでいっているため、とても奥が深い事柄だと思う。
- ・委員会ではキーワードのような大きなポイントをご指摘いただければと思う。

**【事務局】**

- ・次回の委員会でお示しする諮問事項は、今回のご意見を十分に尊重させていただいたうえで、委員長と事前にご相談させていただいたうえで、諮問内容をについて考えていきたいと思う。

(市長入室)

(市長へ答申、歓談)

(市長退室)

**【委員長】**

- ・魅力のある良い公園にするという一言に尽きると思う。

**【委員】**

- ・公園を良くするために、本委員会とは別の団体と意見交換をする機会を設けることで、異

なる視点から公園を良くするための手法が見つかるかもしれない。

**【委員長】**

- ・他団体とのコラボレーションはとても大切だと思う。
- ・コラボレーションをするために、公園側から情報発信してもらう必要があると思う。

**【委員】**

- ・昨年実施したアンケートでは、平日は中高年の方、休日は家族連れが公園に訪れる傾向があると分かったが、学生が訪れないことに着目すべきだと思う。
- ・学生がデートなどで気軽に立ち寄ることが出来るように、カフェやトイレを新調することが必要になると思う。
- ・若い世代を取り入れることによって、松戸市への定住にも繋がると考えられる。

**【委員】**

- ・公園と子供達、公園と若者を結びつけるような「共生」という考え方が必要だと思う。

**【委員】**

- ・公園と子供達、公園と若者など、人と人をつなぐ「ハブ」としての仕組みが公園に必要である。ハード面の工夫（人が訪れたりくつろぎやすい拠点づくりなど）も大切だが、ソフト面、つまり人と人、人と自然などさまざまな関係をつなぐための地域連携のプログラムや環境教育など人材育成の事業がより重要である。そのような仕組みのある公園には中間支援組織が管理に入っており、コーディネーターやレンジャーが配置されている **【委員長】**

- ・これからの公園は、訪れることで何か得をするような場所にする必要があると思う。新たな出会いや学習の場として機能することで、公園内での消費にも繋がると思う。新たなチャンスが出てくるような公園はとても面白いものになると思う。
- ・公園がストレスの発散の場となることで施設が壊されてしまうようなネガティブな要素が発生する恐れも考えられるが、ポジティブな要素を全面的に押し出すことで良い公園になると考えられる。良い公園になれば、良くないことを行わなくなり、施設やランドスケープも相乗的により良いものになる。この辺りの考えが次のプランに上手く盛り込めると良いと思う。

**【委員】**

- ・公園が市民に開かれた空間になることによって、より良いものになると思う。現状の公園は閉じられた空間のように感じてしまう。
- ・国交省の提唱するウォークブルのように、人々のライフスタイルに公園を組み込むことが必要だと思う。

**【委員長】**

- ・この公園にどんな形で辿り着くか。辿り着いたらしばらくいて、「何回も行くぞ」と繰り返し思ってもらえるようにするにはどうすればよいか。子供やお年寄りだったら、車で連れて行ってもらうようなパッと行く方法と、それ以外の方法を検討することが重要だと思う。

#### 4. その他

##### 【事務局】

- ・次回委員会のスケジュールについて、令和3年1月を予定している。次回の委員では、市長より次の任期の諮問をさせていただき予定である。日程については、後日改めて調整させていただく。

##### 【委員長】

- ・以上で委員会を閉会する。

以上